

第3回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議録

1 会議の名称 第3回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議

2 開催日時 平成27年11月19日(木)午後1時30分～午後4時10分

3 開催場所 本庁舎前議会臨時庁舎 2階 全員協議会室

4 出席した者の氏名

(1)水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員

相川達也(代理), 赤津一徳, 伊藤充朗, 大久保博之, 大蔵勇人, 大関茂,
小田部卓(代理), 齊藤恵, 佐川泰弘, 佐藤平八郎(代理), 清水博, 清水昌幸,
田山知賀子, 出井滋信, 任田正史, 袴塚孝雄, 原毅, 保立武憲, 三上靖彦,
宮内久江(代理), 向山路一(代理), 村中均, 八木岡努(代理)

(2)執行機関

三宅正人, 長谷川昌人, 三宅陽子, 堀江博之, 大関利明, 飛田尚亨, 板橋佳広

5 議題及び公開・非公開の別

(1) 水戸市人口ビジョン(素案)について(公開)

(2) 水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)について(公開)

(3) その他(公開)

6 非公開の理由 適用なし

7 傍聴人の数(公開した場合に限る。) 0人

8 会議資料の名称

資料① 水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員名簿

資料② 水戸市人口ビジョン(素案)

資料③ 水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)

資料④ 水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議スケジュール(案)

9 発言の内容

【執行機関】それでは、定刻になりましたので、ただいまから、第3回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議を開催させていただきます。

本日は、御多用の折にもかかわらずお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

それでは、座長に議事の進行をお願いいたします。

____座長、よろしくお願いいたします。

【座長】皆さん、こんにちは。

本日も、大変お忙しいところ、委員各位におかれましてはお集まりいただきまして、ありがとうございます。

この会議も3回目になりますが、前回の議論を踏まえまして、市側で更に検討を加えていただきまして、骨子から、今回、素案という形で人口ビジョンと総合戦略の案が示されることになっております。そういう意味で、大枠は大分固まってきたということになるかと思いますが、今回は、K P Iの部分も含めて、あるいは具体的な施策についてもぜひいろいろと御意見を出していただき、より細かいところについて、私たちの意見を一連のプランに反映させていくという作業になろうかと思います。

ということで、本格的な議論という意味では、今日が正念場ということになると思いますので、ぜひともよろしくお願いいたします。

議事に先立ちまして、本日、____委員、____委員、____委員、____委員、____委員が所用のため欠席との連絡を受けておりますので、御報告を申し上げます。

また、いつも会議録の署名人について御指名させていただいておりますが、今回は、____委員と____の____委員にお願いします。よろしくお願いいたします。

それでは、早速ですが、議事に入りたいと思います。

次第にもありますように、人口ビジョンと総合戦略が今日の審議の対象となるわけですが、(1)の水戸市人口ビジョン(素案)について、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局 資料②に基づき説明)

【座長】一番のポイントとなる、どこに目標を置くかというところについて、本日、素案が新しく出されたということになっております。何もしなければ、2060年に20万3,000人ぐらいまで人口は減るのだけれども、総合戦略に位置付けるようなことをやっていくことによって、水戸市としては、

4万1,000人増やして24万5,000人を目指すのだという案になっているということでございます。

ということで、今日の今日でというのはあるかと思いますが、今の説明を受けまして、委員各位から、御質問、御意見がございましたらお願いしたいと思います。

確認ですが、54ページに国や県の話が表の中に出ておりますが、茨城県の人口ビジョンや総合戦略は10月末に定められたものですが、ここに書いてある合計特殊出生率の目標値というのは、それを踏まえてやられているということなのでしょうか。

【執行機関】合計特殊出生率につきましては、県と同じになっておりますが、あくまで、水戸市としましては、2040年に人口置換水準であります2.07という設定ということで考えております。

【座長】今もそうだけれども、2030年辺りは、茨城県全体よりは少し高めだということですね。

【執行機関】そうです。2010年の数字で、水戸市が茨城県を少し上回っておりますので、目標として2.07は一緒ではあるのですが、途中の段階では水戸市は県を上回るというような設定をしております。

【座長】ということでございますが、いかがでしょうか。

____委員どうぞ。

【____委員】全体としましては、人口は減っても、中身としての0歳から64歳まで、高齢者に比べて、若い人、働ける人の比率が高まる。人口構造の質的な改善が確実にされるということだと思うのですが、先ほどお話に出ましたように、県や国と比べた54ページの表ですと、水戸市は茨城県の平均程度なのかとか、日本全国的に見ても平均程度、今までも平均以下でしたかね。県の中で見ると割と良い方にあったような気もするのですが、今後の期待値として、この程度なのかというのが少し気になるところです。全体としては総人口や人口構造というのはそういう感じかなと思うのですが、県や国と比べた時に、これで良いのかなというのが、少し気になるところです。

【座長】これは最新ではないかもしれませんが、2010年の数字が書かれておりまして、国の1.39に対して、茨城県は1.44、水戸市が1.46ということで、国、茨城県よりは少し高くなっている。大体それと同じような感じで、0.数ポイント高いというような数字の設定になっているということでございます。

____委員どうぞ。

【____委員】これから核となる2つの都市がアンカーとなって茨城県を引っ張っていかないと、もう持たない時代になると思います。もう1つのつくば市の人口は水戸市より多くなるのでしょうか、低くなるという予定なのでは

うか。

【座長】分かりましたらお願いします。

【執行機関】つくば市につきましては、先日、人口ビジョンを策定されまして、水戸市が 2060 年に 24 万 5,000 人の設定をしておりますが、つくば市は、2010 年で 21 万 4,593 人に対して、2060 年で 22 万 9,472 人という設定をしております。つくば市は 2010 年に対して 6.9%の増、水戸市については、現在、2010 年は 26 万 8,750 人で、2060 年が 24 万 5,000 人の設定をしておりますので、2010 年に比較しますとマイナス 8.9%ということですが、県は、2010 年に対して約 20%減、国の長期ビジョンにおきましても 20%以上の減ということですので、つくば市については、社会増などがかなり多いので、それに次ぐぐらいの、県内では大体 2 番目ぐらいの見込みという状況です。

【____委員】というと、県庁所在地である水戸は、つくばに対して、まだ比較的優位性はあるということですね。

【執行機関】そうです。

【____委員】分かりました。

【座長】他の委員の皆様、いかがでしょうか。

____委員どうぞ。

【____委員】先ほど____委員が御質問された出生率の件ですが、例えば、県の中でも、出生率が高いところの特徴と水戸市との比較や、そういうのはベンチマークになるのではないかなと思うのですが、そういう分析はされていらっしゃるのでしょうか。当然、地理的条件が違ったりすると、その要素は違って来たりすると思うのですが、茨城県内だけではなくて、その他の都道府県で、ある程度、水戸市と特徴が似ているところで出生率が増えているようなところ、出生率が水戸市より高いようなところ、そういうところをベンチマークとして分析はされたのでしょうか。

【執行機関】出生率の比較ということでございますが、出生率につきましては、他市町村との比較検討は実施しておりません。あくまで水戸市の状況を踏まえて目標設定をしている状況であります。

【座長】ということですが、____委員、何か御意見ございますか。

【____委員】他のところでうまくいっているところとの比較で、そのギャップが何なのだろうというのはアプローチの 1 つかなと思うのですが、そういう分析があっても 1 つの参考にはなるのではないかと感じました。

【座長】これは、ある意味、2020 年とか 2030 年の数値設定の根拠は何かということとも関係があるところかなとは思いますが

もう 1 つ、方向を設定した意図みたいなことがあれば、難しいかもしれませんが、御説明いただいた方がスムーズかもしれません。

【執行機関】他市町村の既に策定されております人口ビジョン等については確認しておりますが、そことの比較までは、行われていないのが現状です。ただ、水戸市としては、明確な根拠というものにお答えとなるかどうか分かりませんが、先ほども申しました人口置換水準、人口が減らないという値を1つの指標としていきたいということで、2.07で目標を掲げたところであります。

【座長】それと途中の時期の数字等についてはいかがですか。

【執行機関】途中の時期につきましては、こちらは単純になりますが、2010年の1.46から2040年の2.07まで直線式を引きまして、途中の年度はこの値となっていてところであります。あくまで目標は2040年の2.07というところで設定をいたしました。

【座長】ということでございます。

____委員どうぞ。

【____委員】もしかするとダブったお話になってしまうかもしれないので恐縮なのですが、25ページに昼夜間人口の状況が載っているのですが、水戸市が県都である中心性というのは昼夜間人口比率が高く、周りから就業や就学で人が集まっている。この状況が今後どうなっていくのかということに関わる話だと思うのですが、見させていただくと、昼夜間人口比率は徐々に減ってきている。今だに110以上で高いのですが、中身を見ると、就業者の流出は実は増えている。それから、就業者の流入についてはかなり減ってきている。さらに、通学者の流入については大幅に減ってきているというのが現状だと思うのですが、これがここまでの状況で、この数字というのは周りの市町村のまさに就業者の数や就学者の数に左右されてしまうと思うのですが、これは、将来的に、長期で、40年とか60年と見た時に、水戸市の中心性が昼夜間人口比率でどのぐらいというふうにお考えになっておられる想定値があるのか、あるいは、周りの状況を見ると、このトレンドというのは続いていかざるを得ないという前提でお考えなのか、事務局でその辺の御検討をしたことがあれば教えていただきたいと思います。

【執行機関】目標値を明確に定めているわけではございませんが、水戸市の現状を考えるとともに、周辺市町村の状況を併せて考えますと、水戸市に人が流れてくるという状況は、今後も続くものと想定しております。水戸市も人口は多少減ってしまいますが、就業者につきましては、水戸市内の就業率は当然上げていく。生産年齢人口が減ってしまっても、水戸市の就業率の向上等によりまして就業者数は維持等に努めていくとともに、周辺からも人を呼び込む。住まないまでも、働く場の確保ですとか、当然水戸市に学校は多くなっておりますので、今後もこのトレンドは続いていくと考えております。

【座長】他の委員の皆様いかがでしょうか。

____委員どうぞ。

【____委員】これも数字の確認になるのですが、先ほどの合計特殊出生率の関係になりますが、54ページの先ほどの表で、2010年から2020年まで1.46から1.62ということで、これは国もそうなのですが、実際、達成するのは相当大変なことだろうというふうには思うのですが、一方で、資料8ページの水戸市のこれまでの実績推移を拝見いたしますと、2005年で1.32だったものが、8年後の2013年で1.52ということで、これで0.2ポイント上がっていて、そういう意味では、これを伸ばしていくと、確かに先ほどの数字ぐらいには達成できるのかなと思います。ただ、これまでいろいろな市の施策が奏功してきたということもあろうかと思うのですが、言ってみれば、今までの施策を延長していくという形になるだろうということなのか、それは今までどおりなかなか単純ではなくて、相当の積み上げの努力や施策がないと達成できないというものなのか。いずれにしてもチャレンジ目標ということになると思うのですが、どの程度の高い目標として見ておられるかというところを確認できればと思います。

【執行機関】ただいまの御質問ですが、確かに、2005年と比較しますと、水戸市でも相当出生率が伸びてきている状況であります。ただ、2.07という数字は、正直、かなり高い目標を設定したものと考えております。そのため、先ほど申しました子育て支援策等にかかなりの力を入れて進めていくということが大切になってくると考えております。

【座長】その何をやるかというのが戦略に書かれているということでございます。

ということで、今日は最終確定ということではございません。かなりいろいろなデータが入ってしまして、この場でぱっと見て、これは何だということもなかなか難しいかと思しますので、もうワンクッションといいですか、この場ではなくても、御意見が出されたことについては質問にも答えていく、あるいは、中身についての御意見もあれば加えていくというスタンスで事務局側は臨んでおられると思いますので、まず、こちらは一旦区切ります。人口ビジョンの素案につきまして、御質問や御意見がありましたら、随時といっても期限があると思いますが、今日、この場でなくても出していただければと思います。

ということで、良いか悪いかということもなかなか難しいと思いますが、本日のこの場での議論ということでは、これでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

【座 長】 それでは、次の(2)にまいります。水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)についてでございます。

こちら、先ほど申し上げましたように、前回での議論を受けたり、あるいは、別途出された意見も踏まえて、いろいろなところに反映していたのではないかと考えております。

まず、その中身について事務局から説明をいただきます。お願いいたします。

(事務局 資料③に基づき説明)

【座 長】 具体的な施策になりますと非常に多岐にわたるところかと思いますが、一方で、会議に取れる時間も限りがございますので、議論を進めていきたいと思っております。

今、事務局から全ての項目について説明があり、議論のやり方として、個別のところと全体と半分に分けて進めていきたいと思っております。まず、総論部分が、目次で言いますと、I からIVの8ページまでの部分、それから、9ページからは施策の展開になっておりますので、前段の8ページまでの部分、I からIV, 進行体制と進行管理のところまでについて議論をして、その後、9ページから最後までということしていきたいと思っております。

ということで、まず、総論の部分につきまして、御質問、御意見がございましたら発言をお願いいたします。

_____委員どうぞ。

【_____委員】 水戸の魅力というと、昔、文教都市というイメージがありまして、教育というのが1つの大事な要素だと思うのです。水戸駅前も赤塚駅前も学習塾と予備校と英会話教室ばかりですよ。こういう民間の教育力のようなものが集積しているというのは、とてもまちの魅力になると思うので、医療と福祉は分かるのですが、7ページの重点的な取組みたいなところに、「水戸らしい教育の分野での民間教育力の魅力づくり」のようなものを入れることはできないのかなと思いました。

【座 長】 直ちに御回答というよりは御意見だと思いますので、参考にとということをお願いいたします。

_____委員どうぞ。

【_____委員】 私の勘違いでしたら申し訳ございませんが、水戸市の人口減少に歯止めをかける鍵というのは、もちろん、若者が就労し、子どもを生み育てるということは間違いなく結論だと思うのですが、その目指すべき姿が、今回、子どもがまち・ひと・しごと創生という視点で考えた時に、「若い世代が生き生きと暮らせる 持続的に成長するまち 水戸」という目指すべき

姿が、中身は高齢者とか入っているのですが、内閣府の総合戦略のまとめには、高齢者や若者や女性が参画するということが位置付けされているのですが、若い世代だけに目指すべき姿を特化してよろしいかどうか。私は自分が若い世代ではないから、ひがみではないのですが、子どもを生み育てる支援に高齢者もいるし、高齢者の就労もいろいろな面で実現する1つの鍵になっていることから、若い世代に特化して良いのかなというのが、若い世代をきちんとここに位置付けたお考えをお聞かせいただければと思います。

【座長】全体の方向性とかリーディングプログラムのテーマですね。これについての御質問かと思います。

事務局お願いします。

【執行機関】今回、目指す姿を初めてお示ししているわけですが、若い人だけに特化したということではなく、水戸に住む全ての市民の方が安心して暮らして、幸せを感じられるまちとしていくために、地域経済やまちの文化をけん引する、けん引役となる若い世代の方にまず生き生きと暮らしていただく。そして、その活力が水戸市全体の成長や発展につながっていくまちを目指すとしたしまして、今回、「若い世代が生き生きと暮らせる持続的に成長するまち 水戸」というのを掲げさせていただいております。若い人だけに特化したということではなく、水戸に住む全ての市民の方に向けてでございますので、御理解いただければと思います。

【座長】具体的な施策にはそういう項目が入っているのだけれども、全体的なところでの一番大きな手段という表現をしていいのか分かりませんが、そこは若者を前面に出したいというのが水戸だということなのだと思います。

【座長】____委員どうぞ。

【____委員】確認をさせていただきたいのですが、6ページの20歳から39歳の人口、生産年齢人口のおおむね前半世代というところで、社人研推計値が5万7,000人が、2019年度には6万人ということで、社人研推計値よりも3,000人多く設定されたわけですが、今現在、ここから引けば、16歳から34歳ぐらいの年代の方だと思うのですが、この方の現在の人口というか、2019年度にこの年代に入ってくる数というのは、今、把握をされていらっしゃるのでしょうか。

【座長】私もそこを聞きたかったところなのですが、5年後の目標はこうなっているということで、5年後にここに当たる年代層、つまり、16歳から34、35歳のところは何人になるのでしょうかという質問です。

【____委員】なぜこれをお聞きしたいかというと、これは中長期的な論議をしているのだけれども、2019年というと、短期的な話であって、来年高校を卒業して受験される方がちょうど4年後に戻ってくると2019年になるのです。

この方たちが水戸に戻られて、この前半世代になってくる。このためには、戦略的な取組は必要なのですが、これは中長期的な考え方の上に立って、例えば、企業の誘致であるとか何かというのは、声をかけた時に、来年、誘致してくるという短期的な話ではなくて、あくまでも中長期的な中で出てくる話であって、この目標値は4年後の話ですから、短期的にこの人数を確保するためには、それなりの施策をしていかないといけないと思います。社人研の推計値が出ていて、それより3,000人オーバーして頑張りますよと言われましても、その裏付けや積算根拠などがなければ、この数字が今後の数字になってしまうのではないのかなということで、この先4年ぐらいの短期的なこの世代の確保と、この裏付けになるような行政的な後押しというか、こういうものが相まっていないとこの数字が目標だけに終わってしまう。こういう感じを受けましたので、その点だけ確認をさせていただきたいと思いました。

【執行機関】推計値ではございますが、2015年度の数字といたしましては、5万7,313人という数値を押さえた上で、今回の達成目標を考えさせていただいているところでございます。

【____委員】最後になりますが、4年後の目標として、この目標値を設定する。実際、社人研の推計値というのがある程度相まった数字だと、僕は、今、お話をお聞きして受け止めたのですが、これよりも2,687人という数字を4年後には確保しなくてはならない。この確保するための行政等の後押しであるとか、短期的な施策の充実であるとかということが事業として入ってこない。僕自身の中に、これをやったほうが良いよ、あれをやったほうが良いよと提案する考え方は今のところ思いつかないのですが、それは行政として、こういう事業があるから間違いなく2,687人という数字が確保できるということでこういう目標を設定しましたということであるならば納得はできるのですが、今のままの中で、それを論議するのがここですよと言われてしまえば、それまでですが、実際に、僕の頭の中に、この取組の中だけではなかなか難しいのではないのかなということがありまして、前段、目標値が設定されてしまったので、これに対してのあくまでも裏付けというか、そういう施策の充実みたいなものを言って、プラス、皆さんから意見を頂いて、入れていただければ有り難いと思いましたので、意見だけ申し上げておきます。

【座長】他の委員の皆様、いかがでしょう。

____委員どうぞ。

【____委員】出だしのところに「生き生きと暮らす」という表現や、「活躍する」という言葉がありますが、生き生きと暮らしてほしいし、活躍してほしいわけですが、6ページの一冊下の四角囲みの中に若い世代に期待される役割

というのがあります。私たちはこういうことを期待したいのですが、これは結果としてこうなってくれたらいいなということで、ここには、彼らを誘い込む、ここに来る誘因は何なのだろうというのを書くべきではないかと思うのです。実は、僕たちが期待することはどうでも良いのです。若い人は何を期待して水戸に来るのでしょうか。これが水戸を選ぶ理由になってくるわけです。それが後々の戦略との関わりになってくるのですが、私が思うには、こんな暮らしぶりがあるよということだと思うのです。要するに、ライフスタイルです。今までのあなたの暮らしと違って、こんな暮らしぶりが水戸で手に入るよというライフスタイルのイメージを伝えなければいけないのではないかなと思うのです。

そうすると、5ページの全体図に、しごと、ひと、まちがぐるぐる回るところがありますが、この真ん中にどんなライフスタイルがあるのかなというのをみんなでイメージしなければいけないのではないかなと思うのです。

一昨日、市と水戸市中心市街地活性化協議会の共催でリノベーションまちづくりの講演会があったのですが、その中で「暮らしを編集する」という言葉があったのです。後々の施策を見ても、弘道館をどうするとか、芸術館をどうするとか、介護をどうするとか、水戸のそれぞれパーツは、かなり優れていると思うのです。でも、それを暮らしの観点から見た時に、ばらばらのパーツをライフスタイルとして編集はされていないのだと思います。だから、人々の暮らしの中に弘道館、芸術館は登場しないのです。まちなかに暮らしていても千波湖は登場しないのです。施策の中でもパーツの充実は大事だと思うのですが、暮らしぶりをもっとイメージアップすることで、それを実現するためには、そのパーツを暮らしの観点からどう編集するか。これは水戸の暮らしってこうですということそのものだと思うのですが、この手続がどこかで必要なのではないか。これが水戸のプロモーションになるのではないかなという感じを持ちました。

【座長】私も同じようなことを申し上げようと思ったので、この場で時間を頂きます。要するに、先ほど、16歳から34歳ぐらいまでの人だという話が出ましたが、もうちょっと絞って言ったら、今の高校生から大学生ぐらいの年代が就職をする時期がこの時期です。そういう時に、東京などに出ていくのではなくて、あるいは、茨城の中でも、他の市町村ではなくて、水戸市で働いて住んでくださいというアピールになるような戦略でないと、リーディングプログラムとして挙げているところは伸び行かないということです。

では、大学生等にとって何が引っかかっているのかというと、正規で働ける就業地が少ないというようなこともありますし、あるいは、今、比較的、学生等は売り手市場なのかもしれませんが、個人ベースで東京の学校

を卒業してすぐにどうかと所得等で比べた時に、東京より給与が低いとか、けれども物価も違うから、そういうのをトータルで見せた時に、東京よりもこっちの方が楽で、良い暮らしができるのだよというような、この前も取り入るという言葉を使いましたけれども。ただ横串をという発想は良く分かるのですが、これらをつなぎ合わせて、他よりも水戸が良いのだよというところがどこかに見せられて、示されるということが、重点的な取組の1個上、プログラムの下に必要なのかなという感じを持っております。

個人的な意見です。

____委員どうぞ。

【____委員】同じような意見なのですが、1つ引っかかっているのは、6ページの、プログラムのテーマ、「若い世代の雇用の創出」と書いてあるところです。

「雇用」という言葉が非常に受け身的な感じがするのです。要するに、自ら働く多様なワークスタイルと片方では言っているのですが、基本的な大きな目標が雇用の創出になっているので、どこかに雇われて働くというイメージがどうしても大きくなると思うのです。

今、お話があったように、多分、多様なライフスタイルなりワークスタイルと言った時に、恐らく、チャレンジングなワークスタイルや、あるいはクリエイティブなワークスタイル、あるいはライフスタイルが、水戸ですと、文化や遊びがあって、そういったものに若者がチャレンジできるというイメージが水戸の強みの大きな1つだと思いますと、雇用の場をどういうふうにするのかというのが、課題の1つではないかと思います。

それから、それを働ける場というワークスタイルで表すのか、それとも、こういうふうに暮らせる場所、ライフスタイルで表すのかについて少しお考えいただいた方がよろしいのではないかと。それから、文化と遊びのイメージが少し弱く、ワクワクしない感が若者からすると出てきてしまうのかなという感じがします。

もう1つ、リーディングプログラムについては、後ろが非常に重たいので、非常に分かりやすくまとめていただいたと思います。ただ、この部分で、では何をKPIなり重要な指標として目標にするのかということをおある程度取りまとめていただくと、重要な施策としてはこれを見ているのだということが分かりやすくなるかと思いますので、その点もお考えいただければと思います。

以上です。

【座長】他の委員の皆様、いかがでしょうか。

____委員どうぞ。

【____委員】続きで、同じような考えなので一緒にお話しした方が良いと思います。

先ほどの人口ビジョンの中でアンケート調査の結果があったのです。その中で地元の大学に通っている大学3年生、4年生に聞いているところで、希望する職業分野については、公務員が最も多いと言っているのです。別に公務員の方がどうこうと言うつもりはないのですが、先ほどからお話になっているチャレンジングな就業機会の創出とかということになってくると、公務員志向が強い社会ではまずいのではないのかなという気がするのです。

そこで、総合戦略の7ページの自主的な起業への支援では、どちらかというと、そういう価値観がもう決まってしまった大人の人への支援みたいな感じがするのです。本当はもっと小中学生のうちからビジネス的な勉強というか、学びを支えることによって助成していかないといけないような気がするし、一方では、大学生の価値観をつくっているのは、もしかしたら、私たちを含めて親なのかなとも思うのです。親がそう言っているから、あるいは、私たちが挑戦をしていないという雰囲気を出していて、子どもたちがだんだんそういうふうに染まっていったしまったのかなと思います。振り返れば、もしかしたら自分たちが一番反省しないといけないのかもしれないのですが、そういうのを感じるのも、その辺の落とし込みはなかなか難しいと思いますが、ただ紙に書けば良いということではなくて、中身が伴った形で、社会とか価値観をそういう方向に変えていかないといけないとすれば、もっとやり方を考えないといけないような気がします。

結論のない話で申し訳ありません。

【____委員】先ほどの人口の話なのですが、今、水戸市で出産が年間で約2,500人あります。それは10年間ぐらいずっと同じなので、20年だと5万人、少し上の世代の人口が多いので、およそそうなる。そう考えると、20年間で3,000人増やすとなると1学年150人増やすのです。これは結構きつい数字だと思います。以上、現実的な話です。

今、座長や____委員、____委員や____委員がおっしゃった話と重複するのですが、うちは高校生の子どもがおります。我々にとっては、千波湖は、環境的にも、都市の中でああいう大きな公園があるということを楽しんでいる。それをアピールしたいという気持ちはたくさんあります。だけど、うちの子どもは千波湖に全然興味がないのです。それが現実なのです。これは10年後にその子どもたちが水戸へ帰ってくるかどうかといったところのプレゼンなわけです。今の水戸に住んでいる中学生、高校生、大学生の子どもたちが、いかに水戸はすばらしいと思えるか。千波公園が世界で第2位の大きさなのだからいろいろあります。しかも、東京に行ったら生活費がたくさんかかって、可処分所得は水戸の方が良いのだということも分からない。ただ憧れて行くわけです。

その半面、水戸だと、ライフスタイルの多様化で言いますと、水戸のライブハウスは結構盛んで、全国区で入ってくるのです。それには子どもたちは行くわけです。うちの子はサッカーが好きで、そうすると、交通の便が良い、カシマサッカースタジアムや柏レイソルのスタジアムに行くのです。そういう地の利の中での利便性は結構あるのだと思います。本来であれば、水戸ホーリーホックがＪ１に昇格すればもっと行きやすくなるのですが、子どもたちは自分の興味のあることに関しては水戸を活用しているけれども、興味のない千波湖やセツ洞公園などは、全く活用していない。そういったところをこれにうまく入れ込んで、若い世代に、他のまちに比べて水戸が良いという、水戸をどんどんアピールした水戸のまち創生リーディングプログラムのテーマをつくらないと、子どもたちは全然水戸に興味を示さなくなってしまうのではないかと。そういうところを自分の子どもを通じて感じましたので、述べさせていただきました。

【委員】先ほど、多様なライフスタイルということで、私も大賛成で、７ページの今の若い世代の雇用の創出の右側を見ますと、多様な雇用促進ということで、ここでたくさんの就業支援の内容が出ておりますが、ライブハウスが非常に賑わっているとか、それから、水戸駅の南口では、夕方になりますと音楽をやっている若者たちの周りを取り囲んでいる市民が少しずつ増えているような感じで、まちの中に溶け込んでいく反応の姿が少しずつ見受けられているなど思うのですが、もう１つ、大事なものは、自分のまちが本当に大好き、このまちで何かしたいというのは、例えば、行政との連携を図っていく。あるところでは、行政の観光課に高校生がいろいろな提言をしているそうです。そういう発想を転換して、まちづくりに若者を組み込んでいく。そういう発想で、若者たちがこのまちを自分たちで何とか盛り上げていこう、活性化していこう、そして、ここに永久に住んでいこうというような、そこが何となく全体のリーディングプログラムの中で欠けているような感じがしますので、そこに何か入れていただければなと思いました。

【座長】いずれも共通しているのはリーディングプログラムの話で、雇用の創出に特化しすぎているのではないかと御意見が多いのかなということで、狭い意味でのどういう企業に勤めるかという話だけではなくて、もう少し生活の仕方、生き方を含めた見せ方も必要なのではないかということかと思います。

その他、８ページまでのところでいかがでしょうか。

それでは、次に９ページからといきたいのですが、１時間２０分ぐらいたちましたので、ここで一旦休憩を入れて、３時再開ということで、１０分弱、休憩時間をとります。その後、おおむね１時間弱ぐらいてⅣ以降を進めて

いきたいと思います。

では、休憩に入ります。

〔休 憩〕

【座 長】 それでは、時間になりましたので、再開させていただきます。

引き続きまして、9ページから施策の展開となっております。ここにつきましては、基本目標4つ、それから、それを受けた数値目標や、更に細分化してきたところでの具体的施策、K P Iが出ているということになっております。

これもぱっと見てというのは難しいところがあるかと存じますが、お気付きの点がありましたら、御質問、御意見を頂きたいと思います。

【執行機関】 Vの御協議をいただく前に、先ほど、前半の部分で頂きました御意見について、こちらの答弁をさせていただきたいのですが、ライフスタイルの提案や幼少期からの郷土教育という部分については、施策の体系の中でも各個別の事業として提案をさせていただいております。

ただ、頂きました御意見を踏まえまして、リーディングプログラムにつきましては、雇用という言葉の見直しとか、重点的な取組につきましても十分見直しを図ってまいりたいと考えております。

【座 長】 では、続きの9ページから後をいきたいと思います。どこに限らず、ここから後、全般的にどこの部分だということとともに御発言いただければと思います。

____委員どうぞ。

【____委員】 個別にというよりも、全体で気になるところなのですが、K P Iのところを最後まで見ていきますと、K P Iのみならず、数値目標のところ、その目標値の中に何%という言い方をしているのは、女性管理職のところとワーク・ライフ・バランスの達成会社とか、そのところだけかなと思うのです。あとはみんなボリューム、何件とかいうのですが、量の目標というよりも質の目標をもっと増やしていただきたいなという感じを持ちました。

それは、先ほどの前半のところでも、20歳から39歳が5万7,000人から6万人に増えると、3,000人増えるというその3,000人の中身はどんな人なのかというのが気になるのです。それに耐えられる戦略があるのかと、こういう関係になってくる。そういう質の目標をもっともっと増やしていただきたいということと、あと、個別の事業を見ていくと、事業主体のところにもいろいろな団体の名前が書いてあるのですが、この会議にもそれぞれの団体の代表の方がたくさんいらっしゃるの、ちょっと失礼な言い方

かもしれませんが、既存の関係団体でうまくいかないから現状があるという気もするのです。ですから、女性の管理職を増やすという時に、それぞれの団体が頑張ったってうまくいくものではないような気がするのです。だから、そこに、気の利いた仕掛け人がいないとうまく回らないのです。

例えば、よく6次産業化というのがあります。6次産業化も、営農団体の方、頑張ってくださいと言っても、農業の方に販売のことまで頑張れというのは無理な話で、この間テレビでもやっていましたが、6次産業化といった時には、農業ではない人がしっかり絡んであげないと無理なのです。そういった既存団体、関係団体ではないところを、もっともっと、一個一個の事業、施策に絡ませて具体化を図っていただけたらなと思いました。

以上でございます。

【座 長】総論的なところかと思います。

では、他に御意見あればと思います。

____委員どうぞ。

【____委員】少し細かい話を聞いていきたいと思うのですが、まず、生き生きと働ける仕事をつくるということであります。これは、2014年には1万4,434件の事業所があつて、2019年には216件増やして1万4,650件になると。そして、所得は増えるのかも分かりませんが、現在、商業環境若しくは工業環境を見ても、高齢化が進んでしまつてどんどん事業所が減る。一方で消費増税がある。このような中で200社以上のものをどうやって増やしていくのだということがあるのかなと思います。

それから、下の団体等についても、現在まで、マッチング事業というのは、商工会議所若しくはいろいろな団体を通じて今までもやっているのですが、なかなか水戸の事業者としてマッチング事業に参加できるような団体がいない。こういうことが整理されないと、先ほど____委員がおっしゃった6次産業化にしてもそうだと思うのです。

これは、誰がどんなふうにやるのかというところはこれからなのかなと思いますが、いずれにしても、お題目は確かに立派であります。それが今までもやってきてできないのになぜこういう数字になるのだという、その数字の積み上げ等についてお伺いをさせていただきます。

【座 長】担当課、お願いします。

【執行機関】ただいま、____委員から御質問がございました市内事業所数の増加目標でございますけれども、この戦略におきましては、2019年度までに216社の増加を目標として掲げるというものでございます。

具体的なその実現のための取組でございますが、これにつきましては、13ページを御覧いただきたいと存じます。

こちらのK P Iでも掲げてございますように、創業支援事業計画の推進事業等によります新規創業件数、これにつきましては、昨年の6月に国の認定を受けまして、創業支援事業計画でこの事業を進めてございます。37件の新たな創業が1年間であるわけでございますが、これにもっともっと力を入れまして、2019年度までに200件の創業を図っていくというものでございます。

さらには、水戸市におきましても昨年度から企業誘致に対する促進補助制度をつくったわけでございますが、この企業誘致による立地事業に、更に力を入れまして、その促進事業費の見直しも図りまして、5年間で25事業所、さらには、中心市街地における空き店舗対策の助成事業につきましても、年間5件程度の空き店舗対策事業による事業立地を図っていく。こういったことを通しまして、216件の新たな事業所の誘致を図っていくというものでございます。

さらには、市内の事業者、若手のベンチャー企業の立地などによりまして、この実現を図っていくというようなことを考えてございます。

また、新しいものばかりではなくて、ただいま委員から御指摘がございました、高齢化によって事業所がどんどん閉鎖していく部分を、何とか手立てをしていかなければならないということでございますので、10ページにございますように、既存の事業所、企業の競争力、経営力を強化していくための施策として、例えば、10ページの上から3つ目にあります商店街活性化の推進、あるいは、6次産業化の推進といったことによりまして、既存の事業所につきましても、引き続き、維持していただくということを目標として掲げてまいりたいと考えております。

また、2点目の9ページにございますマッチング会の参加企業数、これはこれまでもやってきて、なかなか成果が上がってきていないのではないかと御指摘でございます。

今までの企業のマッチング会につきましては、あくまでも既存の企業の商業ベース、あるいは工業ベースの結びつきの部分でのマッチング会というものが主になってございましたが、現在考えておりますマッチング会につきましては、例えば、異業種間の交流、食の部分について、生産農家がありますとか、あるいは製造メーカー、さらには販路拡大を狙っている事業者といった異業種間のマッチング会なども取り組んでまいりたいということを考えておりまして、この制度設計につきましては、この戦略の期間であります5年間の中で新たな取組として進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

【____委員】そういうことが着実に進むようなサポート体制というのは、ここ言うのは簡単ですけども、現実の問題として、商店街の数もどんどん減っているのが現状です。だから、そういうものをどうやって新たな若者を導入しながら商店街のリーダーをつくっていくか。ここについては、従来の少し補助金を出すから勉強会を開いてよというような形ではなくて、抜本的にリーダーシップが発揮できるような体制づくりというものも、行政としてサポートしていかなければいけないのではないかと思います。

それから、定住化の中ではありますが、今、市内に住む人を増やすということを言われているわけですが、現実のところ、水戸市はコンパクトシティという言葉言っているけれども、現在には、政策がそういう進め方ではないわけです。エリア指定という中であって、郊外にどんどん家が建つような施策をとりながら、一方ではコンパクトシティという言葉で遊んでいる。こういうことが、果たして、今ここに言われているような市内の定住化につながるのかどうか。これは土地政策まで変える気持ちがあってこういうことをやっておられるのかどうか、その辺について伺いをさせていただきたい。

【座長】恐らく、特に中心市街地の居住人口という 17 ページの K P I にも入っているというところで、コンパクトシティ構想との関係はどうなのだという御質問だと思います。

担当課、お願いします。

【執行機関】ただいまのコンパクトシティとエリア指定の関連の資料ですが、32 ページを御覧願います。

こちらにおきまして都市機能の集約といった事業を掲げております。内容といたしましては、立地適正化計画を策定するものでございまして、この中でコンパクトなまちづくりを具体的に示していきたいと考えております。

この計画の検討の中で、今、御指摘のあったエリア指定の地域についても詳細な検討を加えていきたいと考えております。

以上です。

【____委員】観光のオープン化、それから、スポーツ交流という中で大規模スポーツ大会を増やしていくとか、形は良いのでありますが、今の現状から行くと、2019 年までに東日本大会を含めて 4 大会を増やしていくとか、それから、コンベンション誘致で 27 件増やさないと 80 件にならないという状況があるわけですが、これらについても、まちがこういうことをやるよという交渉人、いわゆるスポーツ団体や日本のそういう団体に行って交渉してくる。そういうコーディネーターをどうやって確保していくかということが、これらの成果を上げていくためには一番大きな課題なのだと思います。

っているのですが、この辺の進め方についてどうなのか。

それから、こういった大会をやる時に、公共交通機関の在り方を整備していかなければいけない。公共交通機関、若しくは、そういう交通機関については、日常からの利用頻度がなければ路線というのは保てないわけです。

ですから、そういうところを、高齢化社会の進む中で、ワンコインの公共交通機関をどのようにしていくのか、そういうものがきちんと整理されていなければ、交通体系も含めて、スポーツコンベンション 450 万人の交流人口ということにはつながっていかないのではないかと思いますので、その辺についての考え方がまとまっていればお聞かせをいただきたいと思います。

【執行機関】まず 1 点目、スポーツ大会、全国クラスの大会を 9 大会から 13 大会へというお話がございました。

まず、現在、9 大会で更にこれから 4 大会増やすということで、私どもといたしましては、1.5 倍程度に増やすことによって、市民の皆様がトップレベルのスポーツや競技に触れる機会の拡充に努めていきたいというふうに考えております。

さらに、観光も含めまして、どういうふうに連携をしてそれを誘致していくのかというお話でございますが、私どもといたしましては、そういったスポーツ大会ですとか、大規模な会議を開催いたします文化・スポーツ部門と、宿泊や飲食、交通、物産などの観光産業の窓口となります観光部門とがより密接に連携していくことが重要であると認識をしておりますので、そういった大会ですとか、会議の主催者が円滑な準備・運営を行うことができるような体制づくりを、市としても十分検討し、進めてまいりたいと考えております。

【執行機関】資料の 32 ページをお開きいただきたいと思います。

大規模なイベントを誘致する際に重要になるのは輸送の問題ということでございますが、水戸市において、日常的に公共交通といったものの利用促進をきちんと図っていくというベースがあって成り立つという部分は御指摘のとおりであろうかと思います。

32 ページの中ほどに地域公共交通の再編という項目がございますが、こちらは現在の取組でございますが、水戸市におきまして、公共交通の基本計画というものを、策定しているところでございます。

その計画に基づきまして、今後、現在の水戸市内をネットワークしているバス路線を再編していくという取組を行うとともに、バスの路線が届かないエリアをどのような形で輸送していくのかということを検討いたしまして、現在以上に公共交通が使いやすい環境をつくり出していくというこ

とを取り組んでいるところでございます。

以上でございます。

【____委員】最後に意見だけ言わせていただきます。

今、いろいろ御答弁いただきました。これらをやっていくためには、事業者等々の連携も含めて、道路計画がきちんとできていないと、450 万人のお客さんが来た時にどのように車を処理するのかということが水戸市の大きな課題だと思うのです。

岩間街道や国道 50 号、そして国道 118 号という路線があるわけですが、そこに行くまでの市内の連携がうまくいっていないため、ちょっとした売出しをすると市内は渋滞してしまうという状況でして、そういうことも含めて、この表題のように、まち・ひと・しごと創生の総合戦略ということではありますが、土地政策、それから、交通体系、若しくは道路体系といったものも、都市計画も含めたことをやっていかないと、子どもたちが戻って来たい魅力ある水戸にならないと思いますので、ぜひそういう点に御留意されて、よろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

【座長】最後の御意見については、事務局の方で受けていただきたいと思います。

____委員どうぞ。

【____委員】6 ページにあるように、2019 年に若い世代 6 万人というところで、しかも、その若い世代が、24 ページにある合計特殊出生率も 1.60 を担っていかなくてはいけないということで、先ほど____委員よりお話があったように、人口ビジョンの 49 ページの大学生の調査で、大学生は公務員志望である。これは裏を返せば経済的な安定性をすごく求めているということなのですが、49 ページの下の方を見ると、結婚、子育てのところで、結婚を希望する人の考える結婚や結婚生活での心配事について経済面が最も多い。次いで、相手を見つけること、次に仕事と子育ての両立とあるのですが、女性の学生と話をすると、一度就職して、その後もずっと働きたいと言っています。子どもを生んだとしても、またその職場に戻ってきて、そこでまた働きたいという学生が多いのです。実際にアンケートにもそのように出てきている。

また、人口ビジョンのところで、27 ページを見ていただくと、では水戸の経済構造はどうなっているかというと、サービス産業がほとんどで、すごく労働集約的な場で、しかも、恐らく中小企業が多いのではないかと思います。

そうすると、1.60 という合計特殊出生率を目指すのであれば、もちろん保育所の待機児童の問題もあると思うので、一度出産して戻ってきやすい

環境を整備してあげる、促進してあげるという観点が非常に重要ではないかと思います。

そうすると、総合戦略の24ページのK P I，具体的施策の(1)の若い世代へのキャリア支援の促進とあって、これが果たして妥当な、合計特殊出生率1.60を促進するためにこれが良いのかや、他の事業内容が関連しているものなのか、促進するものなのかというところをぜひ考えていただきたいというふうに感じます。その辺はいかがでしょうか。

【座長】御意見ということで、回答はよろしいでしょうか。

____委員どうぞ。

【____委員】2つほどございまして、1つは、30ページのワーク・ライフ・バランスの推進というところでございます。K P Iのところに、ワーク・ライフ・バランスの推進に関する講演会等の開催回数ということで、2014年度が1回、それから、2019年には8回ということで、果たしてこんなもので1年に2回ぐらいずつ増えるのでしょうか。このような形で本当にワーク・ライフ・バランスを啓発できるのかということと、それから、もう1つ、主な事業のところに企業労務改善の支援というところがありますね。そのところで、労務改善は、長時間労働抑制など、長時間働くことをもう少し短くすることが1つの労働環境の向上に向けた働き方を行うとあるのですが、女性が働きやすいというのは現実的にはこんなものではなくて、女性の就業率はM字型なので、出産・結婚の時には一回辞めて、そして、もう一回その企業で働こうとしても再就職できない。そして、良くてパートなどという形なので、その辺も含めて、ワーク・ライフ・バランスの講演会の回数や事業所へのそういった取組等の部分をしっかりと訴えていかないと、絵に描いた餅になってしまうのではないかと思います。それから、育休の取得の促進ということで、私が以前、水戸市役所はどのぐらいの方が育休を取られているのですかとお聞きしたら、お答えしていただけなかったぐらいに、現実論、男の人が育休を取ってしまうと、次の仕事に対しての影響があるということで、なかなか取りにくい風潮なので、その辺のところを本気になってやるのには、この辺の考え方をもう少しきっちり詰めていかなければいけないかなということが1つです。

それから、もう1つは、教育ということで、先ほど、____委員から水戸市は教育のまちですということでお話があって、具体的な教育のところにつきましては、28ページ、29ページなのですが、ここの主な事業の中で教育が出てきます。

水戸市は、昨年、水戸市消費生活条例を作りまして、今年、日本で初めての消費者が健全に生活できる都市宣言をいたしました。健全な消費というのは、G D Pを上げる、消費支出を上げていくことはとても大事なので、

水戸市は、小さい頃からここについて、しっかり教育の一環の中に入れていく必要がある。福祉や環境などいろいろありますが、食育と同じように消費者教育の推進というのを入れていく必要があるのではないかと思います。

この２点について伺います。

【座長】担当課、お願いします。

【執行機関】ただいまのK P Iにおけるワーク・ライフ・バランスの講演会の数につきまして、こういう指標においてワーク・ライフ・バランスの推進が図られるのかというような御質問かと思いますが、長時間労働の抑制、あるいは、働き方の見直しなど、女性の活躍推進に向けてのワーク・ライフ・バランスの推進に向けましては、これまでも市民への意識の醸成という部分も継続的に行ってまいりましたので、そういう意味で、講演会を持続的に開催をしていくということも、１つ、意味があることかということで、これを指標にしたわけでございます。それとともに、事業所、商工会議所等の関係団体、関係機関との連携を図る中で、女性活躍推進に向けての企業への取組の促進、長時間労働の抑制ですとか働き方の見直しといったものも含め、また、ワーク・ライフ・バランスの推進も含め、取組の推進に向かつての啓発、あるいは支援等を、今後、強化をしてまいりたいと思っております。

【執行機関】学校における消費者教育につきましては、小中学校で、社会科の授業、そして、家庭科の授業で消費者教育ということで行っております。

こちらの主な事業の中には出てきてはおりませんが、水戸市では、数年前に、市独自の消費者教育についての副読本を作成いたしまして、児童生徒に分けて、教育を単位として進めておりますので、引き続き、消費者教育につきまして進めてまいりたいと考えております。

【座長】____委員どうぞ。

【____委員】ワーク・ライフ・バランスですが、人口の減少を抑制し、歯止めをかける、今、一番喫緊の課題はM字型の女性の就労です。結婚や出産の時に仕事を辞めざるを得ない環境をいかに解消し、仕事と家庭の両立支援という、ワーク・ライフ・バランスということで、国はそういう方向に行っていますが、水戸市も本気になってここに取り組んでいくためには、講演会だけでは駄目ですから、実際に事業所に出かけて、ワーク・ライフ・バランスの必要性を訴えるなど、ここの８回という回数は、市民だけではなくて、もっと増やす必要があるのではないかと思います。

それから、先ほど、消費者教育は社会科と家庭科でやっていらっしゃるということで、本当にそのとおりで、これは文科省の学習指導要領の中にもありますが、水戸市としては、もしできたらここにもきちんと位置付け

て、市民総体で、そういう必要性、学校・家庭・職域・地域と4つのところでやるという条例に位置付けがされておりますので、やっていただくことを切に希望します。

以上です。

【座長】最後は御意見ということで承ります。

____委員どうぞ。

【____委員】今の言葉で揚げ足を取るわけではないのですが、____委員の質問をされた時に、男女平等参画課から、ワーク・ライフ・バランスの取組を行っている事業のPR並びに支援という話が言葉にあったのですが、この支援というのはどういう支援を意味しているのでしょうか。もう一度、改めてお答え願えませんか。

【執行機関】ただいまの御質問にお答えをいたします。

啓発及び支援ということの支援の部分でございますが、特に、中小企業にとりましては、女性の活躍推進における意味合いといいますか、各企業での効果やメリットといったものがはっきりと分かっていないような部分があるということもお聞きしておりますので、そちらに対応できるような形で、私どもでそういった手引書のようなものを作成をする、あるいは、それを普及するための研修活動をするといったことで支援をしていければと考えております。

【____委員】このようないろいろな就業の制度ということになると、社会問題だと、いわゆるマタハラやパワハラ、セクハラという話があり、学校におけるいじめの問題も、いじめの事故がこうありました。それをとがめるような話というのはいくらかでもメディアで流れてくるのです。

ただ、一番重要なのは、学校におけるいじめの問題なども含めて、そういうものを克服して、こういうふうに学校がなりましたということが一番重要であって、ワーク・ライフ・バランスの話についても、きちんとやっているところはそれなりに公表して顕彰してあげるといって制度が大事だと思っているのです。

今の社会、いろいろな事件が起こったのにとがめることしかしていない。こういうことであるならば、逆転の発想で、きちんとやっているところはきちんと顕彰してあげる。こういう優良企業はきちんとPRしてあげるといって行政の後押しが必要ではないか。右へならえではないですが、こういう会社の姿勢であるとか、先ほど申し上げたように、水戸市の場合はほとんどが中小企業です。今、中小企業というのは見直される時代で、それなりの技術の粋を集めたような方がいらっしゃるわけですから、そういう方もどんどん水戸市の優良事業者として顕彰してあげるといってことを、まず前提にして物事を進めていかないと、世の中、暗い印象ばかりで、これは

逆行するのではないかと思います。

ですから、____委員がおっしゃったそういう取組であるとか、行政の後押し、講演会等の開催等についてもきちんとやって、そこに参加をされて、事業所がこうなりましたよ、こういうふうに改善しました、こういうふうにはなっていますよというものについては顕彰しながら、そこをPRしてあげる。こういうことの方が重要ではないかなと僕自身は思っているのです。

そういうことで、今後どういうふうな考えで対応されていくのか、そこだけお答えをいただきたいなと思っています。

【座長】意見ということですか。

【____委員】意見でいいですよ。

【座長】より具体的な対応があればという半ば御質問ではありますが、積極的になれば、御意見ということにさせていただきます。

____委員どうぞ。

【____委員】平成26年度にハローワーク水戸で仕事を探している人ですが、年齢別で見ますと、24歳以下が17.9%、それから、25歳から34歳が31.4%、35歳から44歳が23.5%ということで、いわゆる45歳未満の若い方たちが実に全体の72.8%、7割以上を占めている状況です。

昔のハローワークは逆でございまして、中高年以上の人しかいないという状況でした。会社をリストラになったとか、そういう方が多かったのですが、今はハローワークで仕事を探している方の7割近くが45歳未満の方です。

その探している中身を聞きますと、前にお話ししましたとおり、非正規の若者が非常に多い。安定した生活を求めるために、在職中でありながらいろいろ探しに来ると。あとは、正規の社員で勤めているのだけれども、なかなか賃金ベースが上がってこないし、結婚ということになると、より良い賃金や諸条件のアップを求めて仕事を探す。あと、最近の若者に多いのは、離転職を繰り返す人が多いということもございまして、若者の仕事を探している方が多いということもございまして。

24ページのちょうど真ん中辺りに基本的方向ということで書いてございます。「若者の地元での就業機会の拡大を図るとともに」となっておりますが、ここに雇用の安定、非正規が続きますと、なかなか正規になるのも難しいし、本人も心理的に安定しない部分もあるし、一番最後に書いてある経済的な安定がないわけです。ですから、そういうことで、雇用の安定を図ることと、あとは就業の質の向上です。これをちょっと盛り込んだ方が良いのではないかと思います。

具体的に何があるかというところ、一番手っ取り早いのは、市とハローワークが連携をして求人開拓をしていくとか、あとは、今、厚生労働省でもキャリアアップ助成金ということで助成制度がございます。非正規から正規の職員に転換した場合には、ある一定の条件がございますが、助成するような制度もございますので、そういう周知・広報も今後していかなければならないのかなということで考えております。

以上、御提案という形です。

【座長】 〇〇委員どうぞ。

【〇〇委員】 企業も経営している立場から言うと、そう簡単に正規雇用って増やせない。過去のえらい不況、バブルの後の経験がありますから、人を増やすということの怖さがあるのです。

では、政策的にどういうふうにしてくれたらうれしいかなというところなのですが、資料の14ページの真ん中に企業誘致の促進というのがあります。この中を見ますと、第3次産業(商業・サービス業)を中心とした各種企業といったことが書いてあります。それと、10ページの下から3つ目のところに地産地消の推進というのがあります。10ページの地産地消の推進は農業のことしか言っておりませんが、これは農業のみならず、サービスも、製造品も、資源・エネルギー、ひと・もの・こと全部、地産地消で考えたのかなと思います。

これは行政の仕事もそうです。例えば、企業を誘致するといっても、ナショナルチェーンを誘致したら、そのお金はどこへ行ってしまうのだということがとても気になります。それが本当に水戸にとって幸せなのかと。できれば、水戸だけではなくて、もうちょっと広い範囲でもいいのですが、域内循環です。域内で調達して、域内でひと・もの・こと・お金・情報とかがぐるぐる回るようにすべきだと思うのです。それを全国展開のものを持ってきてもらうかなとも思いますし、あるいは、市役所も、日常的な業務発注、また、指定管理なども基本的には地元企業を優先すべきではないかなと思うのです。行政の仕事というのは巨大な仕事がありますからね。それを地元ではできない、いや、地元に育てる意味でも、ちゃんと地元が発注して、東京の応援が必要だったら、東京にもちょっと手伝ってもらうとか、なるべく地元でできるようにするためにとか、そんなことで官民を挙げて域内循環できるような取組をしようとか、こういうのがあると雇用も増やせるかなという感じもします。そんな政策があったら良いなと思っています。

【座長】 行政が考える、行政の中でどうしたらいいという話ではないので、むしろ、そのためにどうしたらいいのかということを考える場をつくること自体が事業の中に入ってもいいのかなというような気もいたします。

他にまだ発言をされていない方もいらっしゃると思いますが、ぜひいかがでしょうか。

では、回答があるということで、担当課、お願いします。

【執行機関】ただいま、____委員から御指摘がありました 14 ページの企業誘致の促進でございますが、ここに主な事業として掲げてございますのは、特に、市外、県外からの企業の誘致というものをターゲットに置いた施策として掲げてございますが、先ほどの____委員の御意見にもありました既存の事業所の維持、あるいは事業拡大というのも大切な施策でありますし、また、ただいま____委員から御指摘がありました域内循環の考え方からしましても、地元の企業の皆様に業務拡大していただいて、雇用を増やしていただくという施策も十分必要だと認識しております。

したがいまして、現在、企業誘致の促進の補助制度によりまして、市内の事業所、企業が業務拡大した場合の支援策についても、水戸市では取り入れているところでございます。

そういった考え方についても、せっかくの事業でございますので、こちらの戦略にも取り入れる方向で、より分かりやすく整理をしてみたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【座長】____委員どうぞ。

【____委員】意見として聞いていただければと思うのですが、人口ビジョンの高校生、大学生のアンケート調査について、これは市のホームページに詳細に出されているので、私は非常に興味深く拝見いたしました。その中で、人口ビジョンの 50 ページのところで、高校生の意識調査の定住意向のところの 2 つ目のぽつのところで、住み続けたいと考える理由は何かというところで回答が多かったのが、友人がいるから、親の近くに住みたい、通勤・通学に便利、日常の買い物というところがありまして、これはこれでそのとおりだと思うのですが、ただ、残念ながら、水戸市だから住み続けたいという意見では必ずしもないのかなと思えました。

それと、その 1 つ戻って、49 ページのところの大学生へのアンケートで、中ほどの定住意向のところですが、その 2 つ目のぽつで、どういう支援を望むかということについては、就職・就業支援の充実が最も多くて、それから、まちなかの賑わい創出ということです。大学生になってくるから、当然、就職が頭に入ってくるということだと思うのですが、今回のリーディングプログラムの最初に雇用のところを挙げられたというのは非常に大事なことで、まず働く場、特に正規雇用の場が最も重要と思われます。まちなかの賑わい創出というところに表れていますが、オフタイムのところは、賑わい等によりどれだけこのまちに住みたいと思うかというところがポイントだと思うのです。そういう意味では、大学生のアンケート調査と

いうのは、オンタイム、オフタイム両方とも、まさに望んでいるところが明確にあらわれているのかなというような気がいたしました。

就職の関係で言うと、今、企業誘致の話もありましたが、全く別の地域のある県の企業誘致の担当の方のお誘いで、その県に立地されている企業で東京本社の企業をフォローアップする場に参加させていただいたことがあります。要は、企業の社長さんがどういう御要望があるかを自治体がフォローアップする場です。一人一人の社長さんからどういうことを自治体に望むかということを知りたいのですが、その時に、社長さんがおっしゃったことで印象に残ったのは、補助金等の財政支援にも限界があるとすれば、そこで働く従業員の方がそのまちに住みたいと思うようなまちづくりを、ぜひやってほしいという要望でした。企業誘致も人と人の関係ですので、自治体の方がまちづくりという角度からも一生懸命やっているというところが企業経営者に伝わると、それはそれで非常に訴求力として大きいものがあるので、そういった活動というのは、まさに、今、市でやっておられると思うのですが、地道な活動だと思うのですが、非常に大事なかなと感じた次第です。

それから、まちなかの賑わい創出の観点では、____委員が御専門だと思うのですが、私も水戸を見て、非常に歴史とか文化とかの基盤がしっかりあるし、ハードもしっかりあると思うのですが、残念ながら賑わいが少し感じにくいという印象が正直ありまして、今検討されている取組が高校生、大学生に響くものになると良いと思われます。その際に、賑わいの話というのは、市がダイレクトに何かをするというよりは、地縁団体とか、あるいはNPOとか、あるいは学生とか、晴れの日があつたらそれを活用したいという主体にうまく場を提供して、そこで自発的にいろいろな取組をやっていただくというような形の賑わいのつくり方というのが、多分、一番良くて、他のいろいろな地域で賑わいが創出されているような事例などを見ると大体そういうやり方が多いような気がします。市の施設なのだけでも、NPOにそのオペレーションを任せてしまって、市の方は逆にそこに出向するなどして、そのNPOのオペレーションをモニタリングするようなケースもありました。そういう意味で、いろいろな角度で市民の方の活動を市が後押しするというイメージが一番良いのかなと感じた次第です。

以上です。

【座長】多岐にわたるお話でしたので、あえてまとめることはいたしません、よろしいでしょうか。

____委員どうぞ。

【____委員】今、____委員がお話ししたこの問題は、特に、人口が減りますよとい

うベースから、それはちゃんと傾向としてそういうことになってきていました。それは何かというと、結婚をする人が減ったり、あるいは出生率が低下したりというベースから始まって、では、そういったものをどう止めていったらいいのですかという中で地方創生というものが生まれてきたということなのだろうと思います。

そうしますと、人の価値観とかそういったものにどんな影響を与えるようなことができるかというところまで入っていかなければならない。それは一自治体がやるわけではなくて、国の問題だということになればそれまでなのですが、例えば、水戸に本当に住みたいのだと、このまま水戸にいたいのだというような話はなかなか若い人から聞く機会はないということなのだと思います。

そうしますと、今回、網羅するような形で、いろいろな取組がされるということ、なおかつそこにはK P Iということで、目標管理もしますよと言っているのですが、それは既存価値の延長線上で少し見ているところがあるのかなという気がします。

それなので、地方創生ということの本気になって考えていくとすると、既存のベースばかりではないものを使っていかなければならない。あるいは、今、____委員からN P Oの話が出ましたが、今までと違うような取組によって、本当に魅力が感じられるようなものをつくり上げていかないと、地方創生といってもうまくいかないのではないか。若い人が住みたいと同時に、ここで一生を閉じられる人も、本当に住んで良かったとならないといけないわけなので、そういった一連の流れが全部つくられるような形が、一挙にはできないにしても、着実にP D C Aのサイクルで回すと言っているのですから、そういったことにしっかり取り組んでもらえればいいのかなどということでありまして、あくまでも希望と意見ということでもあります。

【座長】 5年間でどこまでこの数値目標を上げると言われる限りでは、こういうK P Iになるのですが、もうちょっと先のことまで見据えて、どういうまちにしたいのかみたいな話を、要するに、16歳から20歳代とか、そういう人が話をしたり、あるいは、そこからの希望を直接聞いたり、構想をしてもらいたいな場をつくるということ自体が事業の中にもあってもいいのではないのかというようなことも含めた御意見かなと思います。

____さん、どうぞ。

【____委員(代理・____)】 お世話になっております。____の____と申します。今回は委員である____の代理で参りました。

労働界ということでお話しさせていただくと、先ほど、____委員から、日本は非正規が本当に増えたといったところがありますので、こういったところを含めても、非正規ではなくて、正規雇用をどうやって生み出して

いくつかをぜひとも水戸市の中で掲げていただければと思っておりますし、水戸に住みたい、働きたい、そこで子を生またいといったところが必要なのかなというところもあります。私は水戸に来てまだ10年ほどしか経っておりませんので、水戸の生まれの方には大変失礼かもしれませんが、これまでお話があったように、水戸に住んでいる方がこれだけ歴史と文化がある水戸市の魅力をどれだけアピールできるかといいますと、いろいろなメディアで、インタビューされた場合を見ておりますと、水戸のアピールをする方って本当にいらっしゃらないなというところがあります。こういったところも、教育の面で、ぜひとも、水戸市にはこういったものがあって、こういったところが魅力なのだというところを水戸市民がアピールできることが一番の広告になるのではないかなと思っておりますので、教育の段階から水戸市のアピールをしていければなと考えておりますし、こういったところもぜひとも盛り込んでいただきたいなと思っております。

さらに、観光についても、偕楽園と千波公園というのは、先ほどもお話があったとおり、世界で2番目に広いということをごだけ知っている方がいらっしゃるのかといったところも、アピールが足りないのではないかなと思っております。こういったところを含めて、隣のひたちなか市であれば、国営のひたち海浜公園があれば渋滞になっても、いらっしゃる人がいて、その帰りに水戸に寄っていただいているのかなといったところも含めても、こういった連携が大事なかなと思いますし、ロックフェスの時期に黄門まつりが一緒になっているところも含めると、その期間になると水戸市の宿泊が満室になって、その宿泊された方がどれだけ水戸にお金を落としていくのかなというところも検証が必要でありますし、こういったところと連携していけば、もっと若者が水戸に観光に来て、水戸が良かったということが全国に広がっていくのではないかなと思いますので、もうされているかと思いますが、こういった観光面の検証も、今一度やっていただきながら、かなり事業が多いかと思っておりますので、今まである事業を検証しながら新しいものをつくっていただくのが良いのかなと思います。

最後になりますが、____委員がおっしゃったとおり、女性に対する意識改革が本当に必要ではないかなと思っております。我々____として受けている労働者の中にも、マタハラといったところで、退職を促されるケースが多くなってきているといったことが実態でございます。

こういったところを含めても、女性が働き続けられる環境づくりといったところが本当に今必要ではないかなと思っておりますので、働いて、子を生んで、また働き続けられるといった環境づくりをサポートしていただきながら、この指標には、回数としては、私ももの足りない回数かと思っております。そういったところでも、もっと男性の意識を改革して、女性に働い

ていただきたいのだというところを環境づくりをしていただければと思っていますので、大変長くなりましたが、意見という形でお願いしたいと思います。

以上です。

【座長】では、こちらも意見ということでよろしいでしょうか。

そろそろ時間的にはというところはあるのですが、もしどうしてもという方がいらっしゃれば。

____委員どうぞ。

【____委員】ある本に、鳥取県の倉吉市で、標準世帯で親子4人、500万円の年収で暮らしている生活レベルを、東京に持ってくると1,100万円かかるというデータがあったので、茨城で標準的な生活ができるのは夫婦共働きで600万円ですか。そのぐらいのモデルをつくっても良いのかなと思いました。それだけです。

【____委員】実質的な論議は今日が最後だということだったので、最後に一言だけお話しさせていただきたいと思うのですが、実質的には、茨城県の魅力、水戸の魅力というのは、全国でも、余り認知度がなくて、住みよいまちとしても余り順位は高くない。そういうところで、今、全国で1,718という市町村があります。その中で、25年後には512ぐらいの自治体が人口減少で消えていくだろうという推計も出ていますし、そういう面では、25年後には1,200市町村になってしまう。そういうことを防ぐために、全国の自治体が、今、魅力がある都市であっても、人口減少を防ぐために最大限の地方創生をやっているわけです。

逆に言うと、例えば、札幌であるとか、そういうところの全国的に住みやすいところも地方創生をやっているということになれば、____委員がおっしゃったようなインパクトがあるような発信をしていかないと、基本的にはもうこちらに人口は流れてこないと思います。

それと同時に、一番大事なのは、____委員がおっしゃった自分の都市の魅力をまず知ることだと思うのです。4年間大学へ行っても、自分の故郷に帰ってくるという魅力がなければならぬと。

今ある人口をいかに流出させないで、まずは確保をしなくてはならないということであるならば、都市の魅力が中途半端というのが一番良くないのです。中途半端だからインパクトが弱い。例えば、水戸の地場産業においても、新しい発想として、水戸黒であるとか七面焼というものが地場産業でも出てきました。けれども、去年、おとしもちちょっと話題になりました備前町の下のカリモもそうですが、そういうものが一過性の話題になってもインパクトになってこないのです。そうすると、水戸市の魅力は何かというと、偕楽園と、名物は納豆ぐらいになってしまうのです。納豆

はどう食べているのというのと、他の人は卵を混ぜて食べているよとか、辛子とネギで食うのだから、そんなのは邪道だとかと、そのぐらいの話題にしかないのです。

そうになると、中途半端というのが一番良くないと思う。行政に関わる者としてこういうことを言っただけなのだけれども、水戸市の場合、今は行政が主体になってやっているわけではないので。例えば、僕たちの子どもの頃は水戸の七夕黄門まつりは、七夕飾りで満杯でした。しかし、この20年ぐらいは提灯だけのお祭りになってしまった。ロケーションも悪い。参加する方の中には、昔の七夕まつりは良かったですねという声もあるのだけれども、他にいろいろなレクリエーションや余興があるから、そういうものが中途半端になってしまう。水戸市のイルミネーションも、芸術館も、全部中途半端になってしまう。

これでは何が魅力なのですかといっても、七ツ洞のようなすごい観光名所があるわけですが、これが子どもたちに根付いていない。ああいうものがあって、千波公園もセントラルパークに次ぐ都市公園の2番手の大きな公園ですから、こういうものを発信できる。子どもさんが東京に行った時に、あなたのところの魅力は何ですかと言ったら、この千波公園の話であるとか、七ツ洞であるとか、子どもたちに根付いていれば、こういうものと言える。

4～5年前に、僕は大学の同窓会で、土浦の花火大会と偕楽園の2か所に案内しました。こんなに水戸市って良いところなのかという話を、偕楽園の観梅の前でしたけれども、こういうところなのだという印象を新たにしてもらったということです。

そういう面では、他の自治体の方にも、地方の方にも、子どもや大人が自信を持って水戸の魅力はこれとこれとこれなのだよという、ちょっとインパクトを持てるような水戸に対するイメージというか、本当に水戸が好きなのだというイメージというものを子どもの時代から植え付けていって、必ず水戸市に帰ってきて住みたいなという人たちが増えない限りはこの人口は確保できないと僕は思っています。

そういう面では、これから観光の面も施策の面もそうでしょうけれども、水戸市が好きという人間を水戸市民の中に何人つくるかという、こういう作業の裏付けをこの有識者会議の皆様の意見を基準にして、参考にして、もう一回、基本とした政策にして、1つ1つ行っていただきたいなということをあえて意見として申し上げさせていただきました。

【____委員】多分、ここで言わないと、事務局の方が何事か作業をする契機がなくなってしまうので、1つだけ言わせてください。

今回の総合戦略、目標の設定でK P I ももちろん出ているのですが、重

要目標が出ています。多分、今回、他部局にわたる方々でこれからやっていこうという話と、それから、産学官金、あるいは民間も含めて、市民の方も含めて、みんなでやるという話になると思うので、そうすると目標の分かりやすさが非常に重要だと思います。

ですので、もし可能であれば、後で御検討くださいということで、例えばですが、9番目で、数値目標として、1万4,436から1万6,600とか挙げていますが、中身の真意は、新規開業で200件とるという話だというふうにお聞きしましたので、新規200件を加入させる。例えばです。その下はきっと真面目に計算したのだと思いますが、1兆800億円という数字があります、多分、市民所得1兆円をみんなで分けるということで、1人当たりでは今より多くなるという目標になっているのだと思います。その方が分かりやすくはないでしょうか。

それから、17ページの社会人口増の600は分かりやすいです。ただ、交流人口が409万人、これは400万人でよろしくないか。例えば、400万人で人口の15倍を交流人口として集めますというふうに言っていたいてよろしいのではないか。

それから、後ろのところは分かりやすいので、一番最後の31ページのところは、これはちょっと微妙なのですが、住民の満足度78%というのが微妙で、8割でよろしくないか。住民の8割は満足というふうな表示でよろしくないか。

庁内で積み上げて、詳細に検討されたのだとは思いますが、他の方々から共有しようという時に、分かりやすさというのを追求しようとする、少し大雑把でも良いのではないかと思います。御意見だけ申し上げます。

【座長】 それでは、まだ細かく見ていけばいろいろとあるとは思いますが。

今、出されてきました御意見等について、最後に精査いただいて、盛り込むべきところは盛り込んでいただくということとともに、追加等の意見がある場合、いつ頃までということについてありましたら一言お願いします。

【執行機関】 本日、多数の御意見をありがとうございました。

今後、頂いた御意見を踏まえて見直しと検討を進めてまいりたいと考えておりますが、追加の御意見につきましては、来週の水曜日までに頂ければと考えておりますので、今日御出席いただかなかった委員の方につきましてもそのように御連絡をさせていただきたいと考えております。

【座長】 ということで、議事の2番の総合戦略の素案についての協議については以上で終わらせていただきたいと思います。

最後に、その他についてですが、スケジュール等を含めて、事務局から

ありますでしょうか。

(今後のスケジュールを事務局から会議資料④に基づき説明)

【座 長】ただいま、スケジュールについての説明がございました。

一番最初に示されたスケジュールでは、2月というような話があったかと思いますが、少し早くなっているということでございます。

ということで、スケジュールについて御質問などございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、スケジュールの御確認をいただいたということで、本日の議事を終了したいと思います。

【執行機関】1点だけよろしいでしょうか。委員の皆様に、来年1月中旬に審議させていただく御予定だけ御了解をいただければと思うのですが。次回開催について、1月中旬ということでよろしいかということです。

【座 長】今のスケジュールですが、1月中旬ごろに第4回を開催して、事務局から提案される最終案について、それぞれの立場から意見を述べていただくような場になるということでございますが、よろしいでしょうか。

では、そのようにさせていただきます。

私からは以上です。

【執行機関】本日は、長時間にわたりまして御審議いただきまして誠にありがとうございます。

以上をもちまして、第3回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議を終了させていただきます。

ありがとうございました。